



修了生からの
お便り



充実感と幸福感でいっぱいの2年間

「もっと音楽について知りたい」、「先生になりたい」と思い上越にきたものの、入学式の日は不安で押しつぶされそうでした。講義についていけるだろうか？修士論文を書けるだろうか？2年間やっていけるだろうか？と。ですが、1週間も経てばそんな不安も消えていました。各分野の専門家である先生方による魅力的な講義、充実した環境の中で一から指導が受けられる日本の伝統音楽の演習、時間が過ぎるのも忘れてしまうほど盛り上がるゼミの時間。これらは、それまでの私の音楽観・教育観を見直すきっかけになりました。音楽コースは賑やかで、全国各地から入学した様々な経歴を持った人たちと一緒に、レストランへ演奏に出かけたリ、学園祭でガムランの演奏をしたり、上教大でなければできなかった経験を積みました。佐渡でのゼミ活動も忘れられません。夏は能舞台で地域の皆さんと発表会をし、秋は集落のお祭りで伝統芸能「鬼太鼓」を打ちました。あっという間に2年生になり、修士論文を提出し、それをもとに学会で発表もさせていただきました。印象深い出来事は挙げればきりがありません。音楽コースの皆さんといろいろなことに挑戦し、音楽や教育について、時にはくだらないことにも真剣になった、充実感と幸福感でいっぱいの2年間でした。



青山 梨紗子
(あおやま りさこ)

北海道札幌市出身。札幌大谷大学芸術学部音楽学科ピアノコース卒業後、上越教育大学大学院芸術系コース(音楽)へ進学。玉村恭准教授の研究室に所属し、ハンガリーの楽器「ツィンパロン」について研究を行った。平成29年3月修了。現在、札幌大谷中学校・高等学校にて、非常勤講師及び助手として勤務。

今年の3月に修了し、4月からは念願かなって母校に勤めています。中学校には音楽コース、高校には音楽科があり、音楽が大好きで仕方がない！という生徒たちと一緒に過ごしています。うまくいかないことの方が多いですが、数か月前の自分と同じ、充実感と幸福感でいっぱいの毎日です。

